

いわての

# 風

今、岩手の皆さまから贈られた胡蝶蘭などに囲まれ、福島県郡山市で原稿を書いています。4月に新会社を設立、翌令和元年5月から当地拠点に事業開始したところです。

新事業の対象は「もうけた社長」です。直接的には経営者対象で、経営者の皆さんにももうけてもらいますが、最終的にはその従業員の皆さまの給料を増やすのが当社の使命です。つまり「一生懸命が報われる」よう、企業の高収益構造を作るお手伝いです。

なぜ郡山？と聞かれるので、そのワケを申し述べます。世の中では、やれ付度政治だの、官僚や制度の劣化だの、超優良評価されていた金融機関の不正な融資実態だの、いろいろ情けない事象が取り沙汰されていますが、一般国民はそんなことは無縁で、毎日地道に自分の生活に向き合っ

## 一生懸命が報われるように

関 洋 一  
（福島県・企業世話人）



そんな中、今年の東大新入生に将来進路を聞いた様子が

## 高収益の道 お手伝い

せき・よういち 1952年生 波町生まれ。東京理科大学。商社・完全歩合制販社勤務、誘致企業取締役、県中小企業支援センターPM、盛岡市企業支援マネジャーなどを経て、現在は管理会計実践サポート（株）代表取締役として福島県郡山市を拠点に活動。著書に「一倉定、社長学、実践『SPLーム』のすすめ」。

「あなたの会社は原価計算で損をする」で指摘した誤りが、

テレビで放映され、新入生の過半数が外資系コンサル会社を希望していました。他人の進路選択に干渉するつもりはありませんが、同じ東大の入学式で上野千鶴子名誉教授が「世の中には努力しても報われない人がいる。そうした人に役立つ気概を持つてほしい」と述べた祝辞とは真逆な志向のように感じました。

「汗した者が報われる」でなければなりません（額に汗をかくか、脳ミソに汗をかくかはそれぞれですが…）。そのためには、現実・事実から目を背けず、虚像に足をすくわれないことが大事です。

これは、前述の風潮を象徴する事象で、市井の人と断絶した一部のエリート？の間に勘違いー特権階級が、勝手なモノサシで世間を動かしてよいという錯覚ーがまん延し、新入生があたかも「ハリボテ」に劣化したような危惧を感じ

「ズルしても構わない」「〇詐欺」横行など、不安定で不寛容な風潮が助長され、引きこもり現象などにも深刻な影響を与えるようです。

「成果を得ています。」と心を決めています。